

第26回 山梨県介護老人保健施設大会抄録用紙



演題	アフターコロナ！！施設活性化の現場から
副題	レクリエーションの活動、取り組みから学んだもの

フリガナ	カイゴロウジンホケンシセツ アサヒホーム
施設名	介護老人保健施設 あさひホーム
フリガナ	カイゴシヨクイン ヒヅメ チエコ
発表者(職名・氏名)	介護職員 樋爪 智恵子
フリガナ	レクリエーションインカイ プラス サポート メンバー
共同研究者	レクリエーション委員会 + Support Member

(はじめに)

2019年に確認された『新型コロナウイルス』により、これまでに当たり前だった日常生活、生活様式を世界中が強制的に変化せざるを得ない状況となった。2023年5月に感染法上5類へ移行となり、新たな日常生活へレクリエーションの活動活性化、当施設で取り組んだ事例を紹介する。

【目的】

安全を最大限に確保しながら、施設行事を再開し、季節行事を施設全体で楽しむことを目的として、夏の思い出『 夏祭り  IN あさひホーム』を開催する。

【方法】

コロナ過、なかなか全体での活動ができず、スタッフの入れ替えもあり勝手の分からない状況があったため、再度、組織づくり(役割分担)から始めた。経験のあるスタッフ、新人スタッフ、サポートスタッフ間で何度となく話し合いを重ね、今年の『夏祭り』の骨格を固めて行く作業を繰り返す。

当日までの準備、出店の種類、利用者様への負担、安全性を考慮した当日のスケジュール、スタッフ一人一人の動きの指示等、新しい試みとして施設全体を巻き込み試行錯誤しながら同じゴールを目指し取り組んだ。

【結果】

雰囲気づくりから『準備段階から施設内が明るくなる、季節感が感じられた。』

スタッフから『対話が生まれ、日頃の仕事の連携がしやすくなり、日々の仕事にも助け合いの輪が広がった。』

利用者から『本当に楽しかった。懐かしいね～、うれしいよ～、』と涙ぐまれた方もいた。等等

限られた時間とスペースを工夫し、盛大に開催できた。

【まとめ】

日頃より、多職種連携が求められる老健、施設全体が同じ目的に向かいスタッフ一人一人が自分事として役割を果たし、取り組むことの大切さを改めて実感した。

(おわりに)

何事においても、当たり前が当たり前でなくなること。

コロナで失った時間を取り戻すには、相当のpowerがいる。変化の激しい時代だからこそ、時代にあった変化を皆で工夫して乗り越えたい。

現場レベルでは、コロナを始め感染症に注意し、利用者様対応を日々行っている。利用者様の笑顔のために今後も、色々な行事に挑戦していきたい。『Asahi Super Try』